

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称
令和5年度第1回美里町生活支援体制整備協議会
- 2 開催日時 令和5年6月12日（月）午後1時30分から午後3時10分まで
- 3 開催場所 美里町駅東地域交流センター 大会議室
- 4 会議に出席した者
 - (1) 委員 小野俊次会長、加藤芳郎委員、角田フミコ委員、佐々木義夫委員、鈴木輝雄委員、庄司哲広委員、小川久美子委員、万城目将晴委員
 - (2) 事務局 美里町長寿支援課 橋崎智広、近藤聡子、五十嵐華絵、秀城百香
美里町社会福祉協議会 永沼威雄、高橋ゆかり、田村紗希
- 5 議題
 - (1) 開 会
 - (2) 会長の選任について
 - (3) 協議会委員の交代について
 - (4) 会議録署名委員の選出
 - (5) 報 告
 - ①生活支援体制整備事業の概要と生活支援コーディネーターについて
 - ②令和5年度生活支援体制整備事業計画について
 - (6) 協議事項
 - ①高齢者の社会参加について
- 6 会議の公開・非公開の別
公開
- 7 非公開の理由
- 8 傍聴人の人数
0人
- 9 会議の概要
 - (1) 会議録署名委員の選出 加藤芳郎委員、鈴木輝雄委員
 - (2) 意見等の概要

○事務局（高橋） 協議事項に入りたいと思います。令和4年度に続いて高齢者の社会参加について、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。「元気シニアの身近なつながり密作戦」ということで何ができるか考えてきました。協議会の中で話し合ったときに、見守りと社会参加の話をしてきました。その根底にはやはりつながりがないと駄目だねということで、皆さんと共有したと思います。

また、グループワークを通して、見守りにしても、つながりがないと、気にかける関係性ができない、年をとって弱くなってきてから、つながりを作ろうと思ってもなかなか難しい、元気なうちからつながりを作っていくことが必要という話になりました。ただその一方で、元気な高齢者の方々は仕事をしている方も多く、元気なシニアとつながることが難しい状況にあります。元気なシニアとつながる一つとして、「これで安心地域デビュー」という冊子を作成しました。

地域活動イコール楽しいと思ってもらえる手段として、社協にあるレクリエーション用品をもっと活用してもらったらよいという話になりましたので、レクリエーション用品の見える化というところで、レクリエーション用品貸し出しについてのチラシを作りました。

パンフレットやチラシは作成しましたが、元気シニアの人たちとつながるためにはどうしたらいいかというところが抜けていたことがわかりました。どうやってこの元気なシニアの方々にこれを届けたらいいか、どうやって元気シニアの方々とつながったらよいかを委員さん方にご意見をいただきたいと思っています。

○事務局（田村） 「元気シニア」とは、何歳でしょうか。

○事務局（高橋） 退職直後の方をイメージしていました。

○小野俊次会長 今は75歳以上でも80歳くらいでも元気かなと思っている。

○加藤芳郎委員 このテーマからちょっと逸脱するかもしれませんが、退職したら旅行して歩こうという方がいると思うんですが、退職してから旅行しようと思ってやってる人は少ないです。今働いてる方、その人たちが、もう実際にもう働いてる中で、旅行して歩いている人、私なんかもそうだったです。退職した後のシニアの方と考えるのもよいが今、働いてる方々も入れた形でも考えた方がよいと思います。若いうちから老後のことや地域とのことを考えられるとよいですね。

○高橋ゆかり 元気な人たちに、早くつながりがあった方が、長く元気でいられるよっていうことを伝えたいですね。

○佐々木義夫委員 それは社協が伝える？私たちが伝える？私であれば、散歩している方々が多くいるため、そこに気軽に話しかけるということを考えたりすると思います。

○加藤芳郎委員 口コミの力は強いと思いますが声をかけても今ある集まりに入る人が少ないです。

○小野俊次会長 いろいろとグループはあり、声をかけるが入る人は少ない。そこに何の壁があるか分からない。自分としても声をかけてもらっても知らない人ばかりの集まりであるとちょっと入りにくいなと感じる。

○角田フミコ委員 もう形ができてしまっているところには入りづらいんですよ。週2回グランドゴルフ愛好会やっていて誘われるんだけど、入ってやろうと気持ちになかなかない。

○小野俊次会長 やっている人たちは固定している気持ちはないと思うが、固定化されてしまうのはちょっと問題なのかもしれない。

○事務局（高橋） 地域の方にお邪魔させてもらっているが75歳以上の方が多いと

感じています。65 歳から 75 歳の人たちはどこにいて、何をしていると思いますか。

○角田フミコ委員 家にいます。もちろん働いてる人もいると思いますが家にいる人も多いと思います。

○佐々木義夫委員 やっぱり、週に 2 回働けばあとはうちで籠っているとかな、そんな感じの人が多のかな。

○小野俊次会長 パチンコ屋にいると思う。やっぱり 1 人がいって人もいると思う。

○事務局（高橋） 生き生き学園に通っている方はこの年齢かなと思っています。社協の事業への参加もターゲットの年齢は少ない、特に男性は少ない。どこに行けば会うことができるでしょうか。

○加藤芳郎委員 うちの行政区では「男爵クラブ」という団体がある。健康麻雀、街角散歩、最近は釣りも始まっている。行政区を外して、魅力あるものが必要かなと感じている。特に男性の行く場所がないと感じていて、常に男性が楽しめる場所があればいいなと感じている。

○小野俊次会長 男爵クラブのように出来上がっているところはよいが、みんなが退職してバラバラになってから集まるっていうのも難しい部分があるよね。作る人が必要になると感じる。

○加藤芳郎委員 男爵クラブは飲み会から始まっている。「こんなことやったらおもしろい」「やりたい」ということが飲み会から出てくるのが男の特徴。

○事務局（高橋） なるほど。居酒屋も元気シニアに会う場所のひとつかもしれません。元気シニアが集まっている場所に足を運んでみる方がいいか、パンフレットやチラシを掲示、配布してもらった方がいいか検討が必要であると思いました。地域活動が楽しいと思ってもらえるように見える化して提示する場所を今後検討していけるとよいと感じました。他にアプローチの方法はどういった方法がよいでしょうか。スマホとかもあるがどのような方法がよいでしょうか。

○小野俊次会長 シルバー人材センターは何歳くらいの人が多いですか。

○万城目将晴委員 平均年齢が 74 歳くらいまで上がっています。19 年目になっているが、60 歳から入り、75 歳を超えている状況にあります。60 歳代はほぼ入ってこない、まだ働いている。70、75 歳を過ぎたらシルバー人材センターに行きなさいとハローワークに言われるようです。過去に 90 歳という人もいた。男性が多く、女性が少ないです。女性は孫の子守をしていることが多いようです。男性は仕事をして、休みの時はパチンコに行くようです。

○角田フミコ委員 シルバーでできる女性の仕事は草むしりというイメージ。それだと腰が痛くてできない。シルバーだと男性という印象が強いし、男性でも何か技術がなければと思ってしまう。

○事務局（高橋） 老人クラブは平均年齢どのくらいですか。男女比はどのくらいですか。

○鈴木輝雄委員 80 歳を超えています。60 歳代はひとりもいない。圧倒的に女性が多いです。

○事務局（高橋） シルバーは男性が多く、老人クラブは女性が多い。また、どちらにもターゲットにしたい年齢はないようです。どこで何をしているのでしょうか。

○小野俊次会長 仕事をしている人もいるだろうが、仕事をしない人はうちにいるのかな。家にいてテレビ見ている人が多い。

○角田フミコ委員 奥さんがいれば奥さんと 2 人で完結しちゃって、散歩も 2 人で行って、買い物も 2 人で行って、地域とつながりをもたなくてもよい状況になってしまう。昔は PTA もあるし、地域活動もあるから繋がってたんだけど、今はないかもしれない。

○加藤芳郎委員 行政区内の PTA の連絡もスマホなどで連絡はいらんと言われてしまう。人とのつながりが少ないと感じている。

○小野俊次会長 つながりがいらんという人もいる。そういった人を無理矢理、来いとも言えない。そういう人でも魅力があり、やってみたいと思うことが必要。何か魅力的なことや人も必要。

○事務局（高橋） 小川さんは魅力を発信するのがすごく上手だと思うんです。

○小川久美子委員 ピンポイントでねらいを定めるのであれば、各地域でやってるフラダンスの団体さんは 3 分の 1 ぐらいがまだお仕事を持っていて、自分が活動する日だけにお休みされて、活動されてる方もいらっしゃるし、そういう方達ピンポイントで女性がいいのかな。あと男性だったら、ちょっともしかしたら 65 歳より下になるかもしれないんですけど。土日とか祝日に、ご家族連れてスーパーとか来てくれるお父さんたちたまに休憩所で座っている方たちに、テーブルとかにチラシを置いてあって、それを見てもらう。入口として見てもらうのもあるのかなと思います。今、パチンコ屋さんも地域密着型が多いと伺っているのでパチンコ屋さんとのつながりができたら、コミュニティセンターの講座のチラシとか置いてほしいなと思っています。

○加藤芳郎委員 ウジエの休憩所は学生など若い方が多い。スーパーに協力してもらい、シニアが集まりやすい雰囲気にしてもらえると嬉しい。

○事務局（高橋） 集まりやすい場所はどのような場所でしょうか。

○加藤芳郎委員 声もかけやすいと集まりやすい。また、魅力あることが必要。男爵クラブはリーダーがいろいろと面白いことを考え、探してきてくれる。

○事務局（高橋） リーダーが必要ですね。アプローチの手段として、いつも私たちが思いつくのはこういうチラシとか冊子とかっていうふうになってしまうのですが、他に何かあったりしますかね。

○小野俊次会長 直接、会って話をして伝える。

○角田フミコ委員 チラシも見返したりするので必要であると思う。

○事務局（高橋） 商工会ではどのように周知していますか。

○庄司哲広委員 最近は SNS とかも結構年配の方も利用しているようです。商品券を配った際にスマホでアンケート調査をしたところ、年配の方からもスマホを使っただけの回答がみられました。

○事務局（高橋） 年配の方もスマホを利用する方もおり、SNS も有効かもしれないですね。

○事務局（高橋） 具体的な方法が出てきたのでやっていきたいなっていうふうに思います。あくまで、きっかけの一つになるかどうかというところではあると思うんですけど、何もしないよりかは、何かしらやっていかないといけないと思うので、早速できるところはやっていきたいなと思います。

○事務局（高橋） 皆さんが地域活動に参加するきっかけとかがあって何かあったりするんですか。

○小野俊次会長 自分が作ってみんなを入れた。区長になったことが大きなきっかけ。

○角田フミコ委員 私は PTA の活動から始まった。その後に区長さんから民生委員になってほしいと声をかけられた。

○佐々木義夫委員 行政区の役をやることになったことが地域とつながるきっかけになったことは大きい。

○角田フミコ委員 昔は青年団があった。そこに夫が入っており、地域のお祭りなど参加していた。そういったことに参加していた。だんだんとなくなっていった。

○事務局（高橋） 事務局のみなさんは地域とのつながりが何かあったりしますか。

○事務局（田村） 私、今年自治会の班長になっています。前年度に PTA の地区の委員長をやって、今年班長を引き受けた。コロナの前に、世代間交流とかで、娘も連れて一緒に餅つきをしたりとか自治会の皆さんに娘をかわいがってもらって、良くしてもらったので何か自分ができることがあればと思い引き受けた。自治会の皆さんの顔とか名前が一致してなかったらなかなか引き受けなかったかもしれない。

○加藤芳郎委員 何かしたい人もたくさんいると思う。そういった人とつながっていけるとよい。

○事務局（高橋） ありがとうございます。いっぱいヒントが出てきたかなと思います。前段でも話題になったんですけど百歳体操の方が今、地域の方でも少しずつ広まっています。それ以外にも地域にたくさん魅力ある活動があるので、その活動先が分かるというお話があったと思うんですけど、冊子みたいなものを作ることがいいのか、作って活用されるのか。

○小野俊次会長 行政区だけでやっているという他の人が入れないこともある。

○庄司哲広委員 行政区でやっているということは予算がある？やり方次第では広がりやすい？

○小野俊次会長 予算はないこともある。行政区に住む人しか参加できないというところもある。集まってカラオケを楽しんでいる仲間もいるが人数が多くなると自分が歌える時間が減ると思っている人もいる。

○角田フミコ委員 行政区内の仲間でやると集会所の使用料がかからないが他の人は使用料がかかることもある。

○事務局（高橋） そうですね。できれば私たちもその身近なところの繋がりが近くにあるといいなと思っているので行政区の範囲だとより良いかなと思っています。

○事務局（五十嵐） 今年 70、71 歳の方にアンケートをお願いしています。多分元気だろうなという予想を立て、アンケートをお願いしています。私たちが会う機会がない方なのでどんなふうに美里町で生活されているのか、困っていることはないのか、地域とつながりを持っているか、またはつながりたいと思っている方はいるのかなどを把握したいと思っています。まとめ次第、委員のみなさんに報告して、私たちが目指している元気シニアとつながる方法を一緒に考えさせていただきたいと思います。

○事務局（永沼） シルバーに結構年齢層が高くなってきてから、新規会員で登録するという話であった。登録する前の状況は聞いたことがありますか。

○万城目将晴委員 最近では 70、80 歳代で来る方が多いですが、家で何もしていなくて、ただ暇だったから来たという人が多いです。

○角田フミコ委員 前職はどのような仕事の人が多いですか。

○万城目将晴委員 60 歳代で入ってくる人は事務職が多く、70、80 歳代ではなんでもしますという人が多い。あと、社会的に地域に貢献したいという人もいる。

○加藤芳郎委員 退職して、何もしてないっていうのが非常に苦しくなる時期っていうのは当然出てくると思います。

○事務局（永沼） 70歳に出しているアンケートの結果の方はちょうどジャストフィットかもしれないですね。アンケートから現状が見えてくるとよい。

○万城目将晴委員 シルバーに入ってくる人で、近くの人に入らんとって言われたからって人が多いんですね。一步を踏み出すのがちょっと億劫な人がいる。ロコミが大きいと感じている。

○事務局（高橋） ロコミや声掛けが大きいですね。

○事務局（五十嵐） 経済的に大変でシルバーで働きたいという方はいますか。

○万城目将晴委員 います。ざっとですけど、7割ぐらいですね。やっぱり年金が少ない。時間に余裕がある、地域貢献したいという人が3割ぐらい。

○加藤芳郎委員 元気シニアの身近なつながりだけでなく、元気シニアになるためにどうしたらいいのか今考えておく必要もあるかなと思った。50歳代の人とかね、アンケートを出してみるとか、そういったことをやっていかないといけないかな。どういっておじいちゃんになりたいかを若いうちから考えていけるといいかな。

○事務局（高橋） 元気シニアとつながるためにどうしたらいいかということをお皆さんとざくばらんに話し合いを進めてきました。今日出たロコミ、SNS、チラシを活用しながら、スーパーの休憩所、献血、居酒屋など積極的に向出しているいろいろとお伝えする機会を作っていきたいなと思います。そして、さっき出た若い世代への働きかけについても、今後検討していきたいなと思いますので、また委員の皆さんに、ご意見をいただきたいと思います。鈴木委員さんには老人クラブさんのことをもっと教えていただきたいところもあるので、今後また教えていただければと思います。今日の会議はこれで終了とさせていただきます。

上記会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。

令和 年 月 日

委員

委員